

DESIGN GRADUATION WORKS 2018

卒業作品集

会津大学短期大学部 産業情報学科 デザイン情報コース

DESIGN GRADUATION WORKS 2018

ごあいさつ

この「作品集」は、「デザイン情報コース卒業研究発表会」、「卒業研究発表会研究要旨集」、「卒業展」と、広く一般の方々に公表し、ご批判を仰いでまいりました、会津大学短期大学部産業情報学科デザイン情報コース卒業研究ゼミナールの成果を示す、今年度最後のものです。「作品集」の発行も今年で14回目を迎えました。

産業情報学科では、卒業研究ゼミを必修科目として位置づけ、デザイン情報コースでは1年次の後半からプレゼミとして実施し、2年次より具体的なテーマを設定し、問題解決能力や創造性の研鑽に取り組んでまいりました。その内容はWebデザイン、グラフィックデザイン、漆工芸作品、地域振興、復興支援、製品デザインと様々ですが、いずれも地道な研究を裏付けとした力作です。

今年も具体的な地域の問題をベースとしたテーマが多く見られました。地域の活性化ということでは「会津若松市湊地区の魅力を発見するコンテンツの提案」「地域木材パネルの有効活用デザイン研究－福島発WOOD.ALCパネルの有効活用デザイン提案－」「若年層を中心とした奥会津の地域振興－こころのふるさと奥会津に若者を－」「南会津地域の活性化－手引き轆轤の利活用－」などが地域の

方々の協力をいただきながら進められ結実しております。その他の作品も各分野で学んできたことの集大成として見応えのあるものです。学生諸君にとっては、学生時代の創作への熱意と、活力に満ちた日々の証として、知性と感性を傾け、創造への情熱を持って過ごした時期です。その中で創造された作品は、よき思い出になるものと期待しております。

卒業する学生諸君には、この卒業研究ゼミで経験したプロセスと反省を通じて、創造することの喜び、諸問題に挑戦するエネルギー、充実したときを過ごして得た達成感などを糧に、今後の社会生活の中でさらなる飛躍につなげて行ってほしいと願っています。

最後に、卒業研究および卒業制作にご支援、ご協力をいただきました学内外の関係者のみなさまに深く感謝し、厚く御礼を申し上げます。この作品集は広く学外にも配布してご高覧に供します。忌憚のないご意見、ご批判を賜れば幸甚に存じます。

2018年3月

会津大学短期大学部 産業情報学科

学科長 石光 真

目次

4 VR空間での擬似的なドローンの操縦体験
加藤 洋平

5 360度カメラ搭載無線車両による観光地の撮影の提案
古賀 敦樹

6 会津若松市湊地区の魅力を発見するコンテンツの提案
鈴木 梨奈 根元 かな子 宮森 里沙 渡辺 彩子

8 「奥会津昭和村」活性化プロジェクト
カスミ草を核としたリノベーション提案
太田 敦子

9 こども食堂における空間デザインの研究
中曽根 椿

10 左官の技術を現代の空間デザインに活かす
版築をはじめとする左官技術を用いたデザイン提案
畠山 杏花

11 「コトづくり」でコミュニティの場に
シェアカフェで空き家利活用、リノベーション・ギャラリデザイン提案
藤澤 忍

12 五泉市のこぎり屋根工場調査研究
機織産業の隆盛を今に伝える工場調査・活用提案
細田 恵理

13 地域木材パネルの有効活用デザイン研究
福島発WOOD.ALCパネルの有効活用デザイン提案
八幡 若奈

14 若年層を中心とした奥会津の地域振興
こころのふるさと奥会津に若者を
小野 真生 佐藤 のど佳 佐藤 美咲 丸山 佳純

16 会津戊辰150周年PRプロジェクト
飯 琴乃 河原木 美裕

17 親しみを感じる小学校のロゴ
高田 優美

18 川連漆器の知名度向上を図るグラフィックデザイン
中山 渚

19 七日町通りの紙袋デザイン
門前 彰太

20 「会津彼岸獅子」を伝えるポスターの提案
渡部 早紀

21 「会津七福神巡り」へ導く御朱印帳
渡邊 史子

22 北会津こどもの村幼保園のVIの提案
和智 綾乃

23 和の継承
現代と融和する漆
秋山 由佳

24 南会津地域の活性化
手引き轆轤の利活用
遠藤 あやめ

25 現代日本人の心に眠る伝統的精神文化の覚醒
漆と妖怪
小林 由布佳

26 「枕」
思いを繋ぐアクセサリーボックス
出崎 萌華

27 弔い
現代のやすらぎと慈しみ
長澤 みなみ

28 部屋を効率よく使うための家具の提案
阿部 実貴恵 渡部 萌生

29 手軽なハンズフリー歩行補助具の提案
片足の不自由をサポート
五十嵐 まりあ

30 子どもに運動の楽しさを
幼児から始める運動能力が高められる遊具の提案
西澤 史織

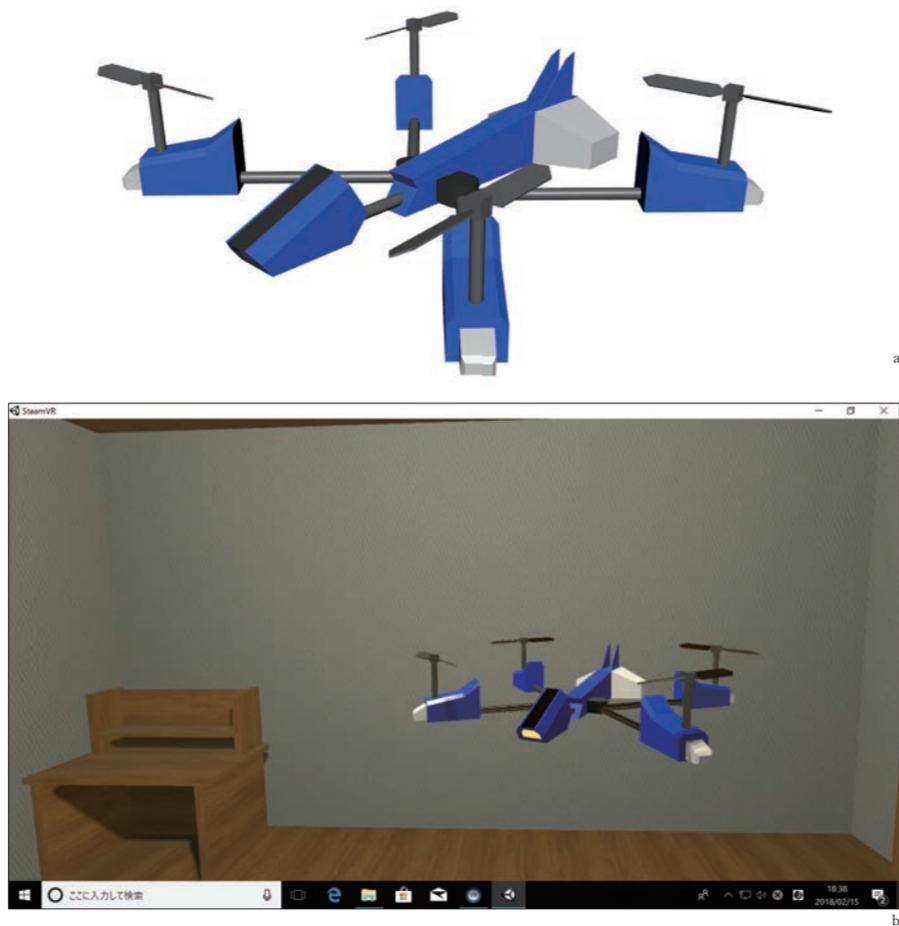
31 会津桐を生かした製品
会津の特産物で地域の活性化を促す
堀江 滯

32 長期間使用できるベビーカー
山下 佳奈子

VR空間での擬似的な ドローンの操縦体験

加藤 洋平

近年、バーチャルリアリティ(以下VR)は身近なものになりつつある。またそれに加えて、ドローンが目覚ましい発展を遂げている。人間では行けない危険な場所への調査やホビーアイテムとしての利用など、様々な分野でドローンが使われている。この研究は、ヘッドマウントディスプレイ(以下HMD)のViveとゲームエンジンであり統合開発環境であるUnityを使用してVR空間内でドローンの操縦体験を行うことを目的とする。UnityとViveをサポートしているプラットフォームのSteamVRはそれに必要な機能をカバーしてくれるアセット(素材データ)があらかじめ用意されている。制作したツールではViveのルームスケール機能によって、3DCGで制作した部屋の中を自由に動くことができ、Unityの物理演算機能とプログラミングによって部屋の中でドローンを操縦することができる。



- a. モデリングしたドローン
- b. 仮想空間で飛行中のドローン
- c. Viveでのコントロール
- d. VRシステム一式

[技法・サイズ]

ハードウェア

ヘッドマウントディスプレイ(HMD): HTC Vive
PC: CPU Intel Core i7 GPU NVIDIA GeForce GTX1070
メモリ: 16GB (RAM)

ソフトウェア

OS: Microsoft Windows 10 Home 64bit
統合開発環境: Unity 5.0
モデリング: blender 2.7
プラットフォーム: Steam VR



360度カメラ搭載無線車両による 観光地の撮影の提案

古賀 敦樹

最近では360度の映像コンテンツが普及し始めており、観光地などの記録を残すのに最適である。しかし、360度カメラの撮影は、撮影者も写ってしまうと不都合な場合もある。よって本研究では360度カメラを無線操縦車両に装着し、観光地を360度動画で撮影することで撮影者が写る問題を解決することを目的とする。撮影時のゆれや傾きを軽減するためにジンバルを装着したが、車両の重心が上部になったために急な発進や停止で転倒などの恐れがでた。その解決のために上部と車両部分をつなぐ構造と部品のデザインを考案し、3Dプリンターを用いて製作した。観光地は飯盛山の厳島神社を360度カメラで撮影した。撮影した動画は360度の映像となっているため、YouTubeなどを通して、スマートフォンのVR機能を使用してのVRゴーグルなどを用いて観ることができる。



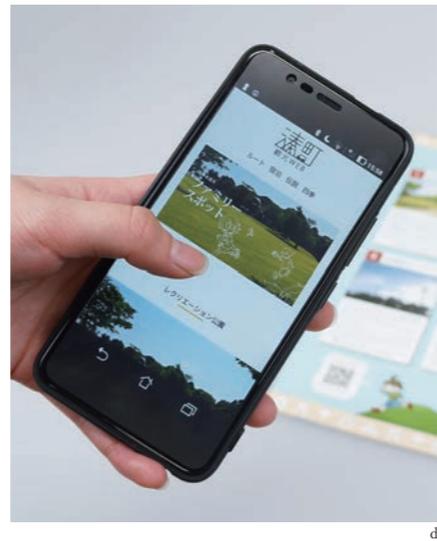
- a. 厳島神社のパノラマ画像
- b. 360度カメラ搭載無線車両
- c. 3Dプリンターで製作した部品

[素材・技法・サイズ] プラスチック、金属 3Dプリンター
映像: 1920 × 1080pixel 車両: 45 × 28 × 105cm

会津若松市湊地区の魅力を見出す
コンテンツの提案

鈴木 梨奈 根元 かな子 宮森 里沙 渡辺 彩子

会津若松市湊町は、農業や地域活動が盛んな自然豊かな地域であり、魅力的な資源が多く存在する。しかしその一方で、人口の減少や観光客が集まりにくいといった問題を抱えている。本研究では、湊町魅力を外部に伝え活性化させていくことを目的とし、パンフレット・観光サイト・CM・PR動画の計4点のコンテンツ提案を行う。パンフレットには湊町の概要や観光ルート等のほか、QRコードを記載しサイトとの連動性を持たせた。観光サイトはレスポンスデザインを適用させ、テーマ別観光ルートや四季ごとのイベント等の情報を掲載している。CMは縁結びの伝説である「ラッキーバード」をもとに15秒と30秒の作品を、PR動画は湊町に昔から伝わる「恋ヶ崎伝説」を主軸に制作した。CM・PR動画は共にオリジナルストーリーであり、観光サイトにも掲載する。



a. 湊町観光WEBトップページ b. 湊町の四季紹介ページ c. パンフレット d. サイト観覧の様子(スマートフォン)
[素材・サイズ] WEBサイト:湊町で撮影した写真、イラスト PC:1920×1080pixel タブレット:1280×720pixel スマートフォン:640×360pixel
パンフレット:紙 29.7×21cm



e. CM「ラッキーバード伝説～湊町には愛がある～」
f. PR動画「恋ヶ崎伝説～時空を越えた愛～」
[素材・サイズ] 湊町で撮影したもの
CM:1920×1080pixel
PR動画:1920×1080pixel

「奥会津昭和村」活性化プロジェクト
カスミ草を核としたリノベーション提案

太田 敦子

福島県奥会津に属する「昭和村」は、人口が県内ワースト2位、さらに高齢者が7割と、過疎化の進んだ地域である。本研究では、昭和村の「旧喰丸小学校」のリノベーションデザイン案を考案し、それをきっかけとして若い人材を昭和村に呼び込むことを目的としている。デザイン案を考案するにあたり、多くの取材を行った。そこから得られた情報は、昭和村の経済の基盤が「カスミ草」であること、そして近い将来カスミ草農家の方が20名近く辞農するだろうということだった。これらの背景から、カスミ草を育成する若い人をターゲットとしたリノベーションを行うことに決定した。具体的には、旧喰丸小学校の外壁や教室の雰囲気などはそのまま残し、1階を主な生活拠点、2階を寝室とした。研修のサポートと、若い人のコミュニティの場としての役割を持たせている。



a



c



b

a. コミュニティルーム・食堂 b. 改修中の旧喰丸小学校 c. 研究室(左)、開発・企画室(右)

[素材・サイズ] 5mm角材、8×5mm角材、スチレンボード、パルサ板
52×106×41.5cm

子ども食堂における空間デザインの研究

中曽根 椿

現代の日本では、相対的な貧困状態にある子どもが年々増加し続けており、他の要因とも相まって子どもたちの孤食という問題に発展している。これを危惧した一般市民の有志が始めた子ども食堂は、現在も全国各地で広がりを見せている。本研究では、アンケート調査やヒアリングから子ども食堂が抱えている施設面での問題点を抽出し、子どもたちがより楽しく、かつ自立的に生活できるような子ども食堂の施設、ユニットのデザイン提案を行った。施設は、キッチンに回遊性を持たせ、子どもたちと一緒に調理をすることに重点を置いた。また、用途に合わせて転用できるスペースを設けることで、子どもたちが自由に活動できる空間を確保した。ユニットは、スペース面での問題を解決するために屋外でも使用でき、寸法は子どもと大人それぞれに合わせたものとした。



a



b



c

a. 室内模型 b. 全体模型 c. ユニット展開例

[素材・サイズ] シナベニヤ、PET板、和紙
42.2×105.7×39cm

左官の技術を現代の空間デザインに活かす
版築をはじめとする左官技術を用いたデザイン提案

畠山 杏花

近年では左官技術が必要な工事が減ってきている。しかし一方で珪藻土や漆喰、土などの自然素材を用いた味わいのある左官仕上げの壁等が再び注目され始めている。その中でも法隆寺や万里の長城にも用いられている「版築」という技術に目を向けた。現代の生活の中で再評価され、左官技術者の仕事の幅を広げられるような、使われるデザインの提案をするために制作・研究を行った。本研究では版築技術を「壁」ではなく「家具」として落とし込んだが、「壁」から「家具」へと移す過程で、伝統工法の版築技術だけでなく版築風に塗り上げる「塗り版築」という技術も用いた。これらのデザイン提案を通して版築技術のデザインの幅を知ってもらい、土を身近に感じることで左官技術の面白さを再発見していただくきっかけになることを期待している。



a



b



c

a. 火鉢(塗り版築)、キャンドル立て、傘立て(塗り版築)、照明器具 b. 花器 c. 版築パネル(塗り版築)

[素材・技法] 土、砂利、石灰、藁、木材など [サイズ] 火鉢:36.5×36.5×28cm キャンドル立て:10×10×9cm 傘立て:30×30×51cm
版築、塗り版築 照明器具(版築部分):19.5×19.5×10cm (シェード部分):19.5×19.5×20cm 花器:10×24.5×10cm 版築パネル:60×60×2cm

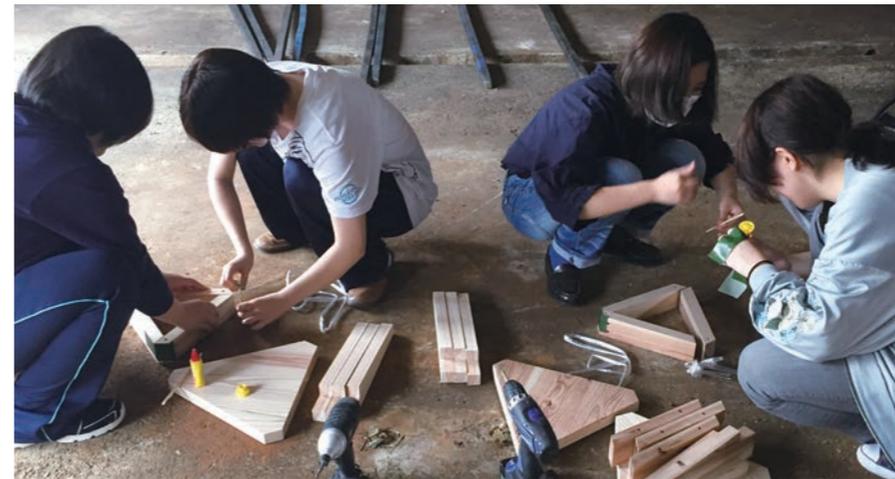
「コトづくり」でコミュニティの場に
シェアカフェで空き家利活用、
リノベーション・ギャラリーデザイン提案

藤澤 忍

近年、都市開発が進み、多くの住宅が増加する一方、人口減少や都心への移住により人がいなくなった建物、いわゆる空き家が増加傾向にある。本研究では空き家、特に空き家の利活用に着目し、「マチづくり」ができないかと考えた。ただ単に空き家を利活用し「マチづくり」を行うのではなく、コミュニティやイメージ、雰囲気や思いなど、手には取れないが存在するものに焦点を置く「コトづくり」を行いたいと考えた。「コトづくり」として、空き家での活動内容が入れ替わるシェアカフェを椅子やテーブル、シェアカフェ会場を製作し、コンテンツとしてワークショップ、レクチャーを2度行った。また、今回借りることになった空き家のリノベーションデザイン、空き家にある歴史的な金物のギャラリーづくりをし、空き家に人が集まるきっかけづくりを行った。



a



b



c

a. リノベーション模型 b. 椅子製作のワークショップ c. シェアカフェ会場

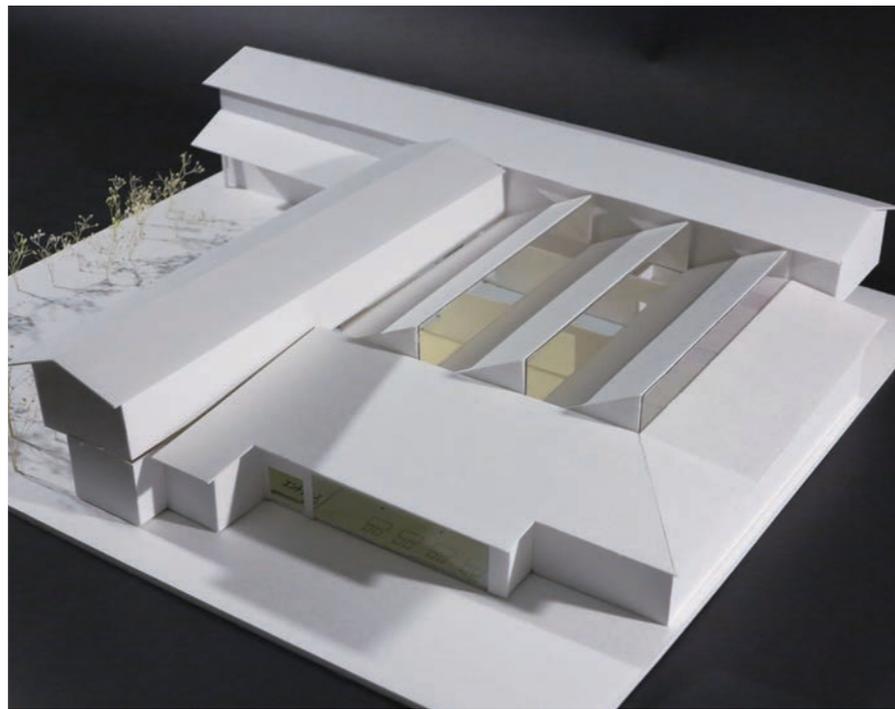
[素材・サイズ] 椅子・テーブル:木材 パーテーション:プラスチックダンボール、木材 模型:シナベニヤ、PET板
椅子:31×36×40cm テーブル:62×72×70cm パーテーション:443×534×260cm 模型:41.6×55.2×32cm

五泉市のこぎり屋根工場調査研究

機織産業の隆盛を今に伝える工場調査・活用提案

細田 恵理

本研究は五泉の記憶を保存することを目的とし、のこぎり屋根工場についての研究を進めていった。五泉市の織物産業の歴史を読み解き、織物産業についての理解を深め、のこぎり屋根工場の特性、今後の活用について提案する。のこぎり屋根工場は木造が主流であるが、建て替え、解体されてしまうことが多くあるため、のこぎり屋根工場、今なお機業をしている機業場が存在しているのは全国的に見ても非常に珍しい。のこぎり屋根がなくなってしまうことにより、地域を形作っていた伝統的・歴史的な建物があつたという事実すら、新しい世代に伝わらなくなってしまい、のこぎり屋根の記憶を知っている世代の記憶もどんどん色褪せていく。これは文化の記憶が失われてしまう一因であり、後世に伝えていくための試みが必要だと考え、本研究に着手した。



a. 全体模型 b. 上から見た軸組み模型 c. 横から見た軸組み模型

[素材・サイズ] 全体模型：スチレンボード、紙、樹脂板、カスミソウ 53×47.5×11cm
部分模型：木材（ヒノキ角材） 85×90×25cm

地域木材パネルの有効活用デザイン研究

福島発WOOD.ALCパネルの有効活用デザイン提案

八幡 若奈

現在の日本の林業は成長量に見合った木材利用がされておらず、森林機能の低下や自然災害の2次被害をもたらしている。近年では、森林を多量に活用する目的でパネル工法がいくつか開発されている。その中に福島の企業が独自に開発したWOOD.ALCというものがある。本研究では、WOOD.ALCを調査・分析し、有効活用デザイン提案を行った。WOOD.ALCを用いた建物の現地調査、企業の方々のヒアリング調査から分かった事を分析・考察し、これを進めていく中で食事をする空間や本を読む空間に木の肌が合っていることが分かった。よって、WOOD.ALCを用いた会津大学短期大学部図書館のデザイン提案を行った。また、WOOD.ALCを活用する際の問題点としてエレベーションのバリエーションが少ないという点が挙がった。よって、エレベーションについても同時にデザイン提案することを目的とした。



a. WOOD.ALCを活用したエレベーション b. WOOD.ALCを活用した図書館内部 c. 1階開架図書

[素材・サイズ] 木材、樹脂板
79×39×35cm



若年層を中心とした奥会津の地域振興
こころのふるさと奥会津に若者を

小野 真生 佐藤 のど佳 佐藤 美咲 丸山 佳純

奥会津地域はシンボルである只見線をはじめ、豊かな自然、名所の数々など魅力ある観光資源を十分秘めている一方で、若者の流出や過疎化など、社会的な問題を抱えている。奥会津ではイベント活動で問題を解決しようと試みているが、観光客増加だけでは一時的な誘客に過ぎず、根本的な解決には至っていない。今まで私達が奥会津取材してわかったのは、移住者による経済効果が大きいことだ。また、若者が移住していることを知り、移住者が奥会津の問題を解決する糸口なのではないかと考えた。成果物では、交通広告や折り紙で老若男女問わずさまざまな人に奥会津を認知してもらうことを目的としている。そして、これらを見て興味を持ってくれた方がパンフレットを見ることでさらに奥会津を知り、移住を視野に入れた体験ができるような内容になっている。



a



b

a. パンフレット b. 折り紙 c. 折る様子 d. 夏広告(中吊り) e. 冬広告(中吊り) f. 夏広告(駅貼り) g. 秋広告(中吊り)

[素材・サイズ] 紙

パンフレット: 21 × 14.8cm 折り紙: 15 × 15cm 中吊り広告: 36.4 × 103cm 駅貼りポスター: 103 × 145.6cm



c



d



e



f



g

会津戊辰150周年PRプロジェクト

飯 琴乃 河原木 美裕

平成30年は会津戊辰戦争終結から150周年を迎える節目の年で、会津若松市内では各地でこれに向けてさまざまな取り組みを計画している。会津戊辰戦争は、現在私たちが住んでいる土地にとっても関係が深いものである。しかし、アンケートを実施した結果、会津戊辰150周年の認知度が低いことがわかった。そこで私たちは、グラフィックツールを用いて、戊辰150周年記念事業を地元または観光客の方に知ってもらいたいと考えた。これまでに短大生活で学んできたことを生かして、鶴ヶ城の天守閣に登ると絵になって見える鶴ヶ城本丸芝アートを制作した。また、元旦登閣用飯べら袋のデザインをした。更に、実際に会津戊辰に関係のある土地を訪れてもらうパンフレットを制作した。これらの活動は各種メディアに取り上げられ、少しでも認知度が上がったのではないかな。



a. 鶴ヶ城本丸 芝アート b. パンフレット c. 飯べら袋

[素材・サイズ] 芝アート：農業用防虫シート 約31×23cm
パンフレット：紙 21.0×14.8cm
飯べら袋：紙 28.9×8.9cm



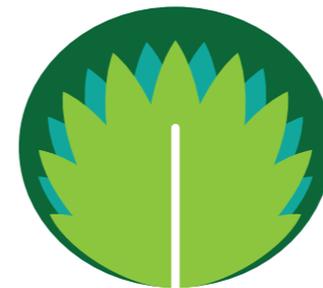
c

親しみを感じる小学校のロゴ

高田 優美

会津若松市内の小学校の校章を調べると、校章のデザインが似ているものや複雑な形状をしているものがあるため、校章だけではそれぞれの特徴が伝わりにくい学校がある。また、校章のモチーフが現在の学校にはないものがあり、児童にとってイメージしにくい学校もある。このことから、校章が現在の小学生や地域の人にとって、馴染みにくいデザインになっていると考えられる。そこで会津若松市内にある19校の小学校の親しみを感じるロゴを制作した。校章の由来やモチーフを踏まえつつ、各小学校が持っている特徴や学校独自で行っている取り組みなどの要素を取り入れた。また、児童でも描けるシンプルな形で構成している。児童や職員、地域の方にとって親近感のあるロゴにすることで、校章よりも親しみを感じられ、それぞれの小学校の特徴が伝わるように表現した。

a. 東山小学校 b. 小金井小学校 c. 日新小学校
d. 行仁小学校 e. 神指小学校 f. 松長小学校 g. 荒館小学校



神指小学校

e



松長小学校

f



荒館小学校

g



東山小学校



小金井小学校

a

b



日新小学校

c



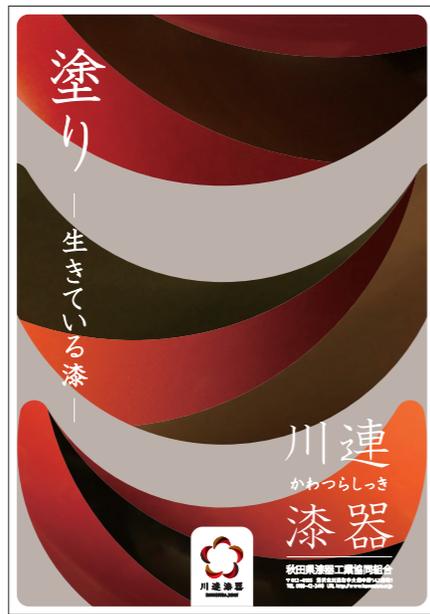
行仁小学校

d

川連漆器の知名度向上を図る
グラフィックデザイン

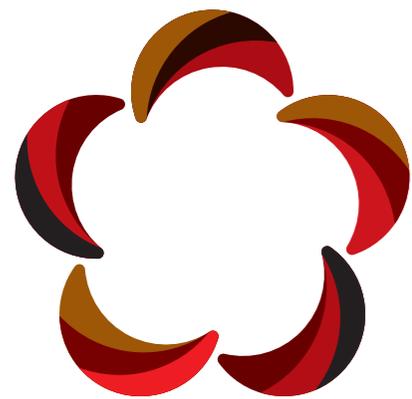
中山 渚

秋田県湯沢市には800年の伝統を持つ川連漆器がある。昭和51年に国の伝統的工芸品、平成8年には秋田県伝統的工芸品に指定されている。しかし、知名度が低いことが秋田県漆器工業協同組合の中でも問題となっている。これは川連漆器のイメージが確立されていないことや「川連(かわつら)」という漢字が読めないこと、川連漆器の魅力を全国に発信しきれていないことが原因として挙げられる。これらの問題を解決するため新たにロゴ・ポスター・パンフレットを制作した。ロゴは川連漆器の特徴と地名の要素を取り入れたデザインにし、ポスターではロゴの要素を用いながら漆器が出来上がる工程を見せる。パンフレットでは川連漆器がどのように製作され守り続けられてきたのかを伝える。これにより、川連漆器のイメージが確立され知名度向上へ繋げることができた。



a. ポスター(塗り) b. ポスター(沈金) c. ロゴ d. パンフレット

[素材・サイズ] 紙 ポスター: 72.8 × 51.5cm
パンフレット(表紙サイズ): 18 × 13cm (展開サイズ): 18 × 78cm



川連漆器

KAWATSURA JAPAN

c

七日町通りの紙袋デザイン

門前 彰太

会津若松市の観光地である七日町通りには、景観の統一性など観光地としての特徴が少なく、そのために観光客に認知されにくいという問題を抱えている。そこで、通りの繋がりを可視化し、かつ観光をより楽しんでもらうための手段として、統一感を出しながら宣伝効果も得られる紙袋を制作した。本研究では、紙袋を利用することで宣伝・集客の効果を見込めると判断した40店舗を取り上げて制作。大正浪漫の雰囲気をもつ通りであることから、日本の大正時代と同時期に海外で流行し、日本のデザイン界にも影響を与えたアール・デコを参考にした。商品などの店舗の特徴を単純な図形に変換して、通りの雰囲気と合致するようにアレンジを加え表現し、色合いや手触りから通りらしい素朴な暖かさを伝えられると考えて素材にはクラフト紙を使用した。



a



a. 40店舗の紙袋 b. 店舗の特徴を表現した紙袋 c. 用途に合わせた3つのサイズ

[素材・サイズ] クラフト紙
大: 37 × 30 × 15cm 中: 30 × 24.3 × 12.2cm 小: 23 × 18.5 × 9.2cm



c

「会津彼岸獅子」を伝える
ポスターの提案

渡部 早紀

福島県会津地方には、「会津彼岸獅子」という伝統文化がある。太鼓や笛の音色とともに3匹の獅子が舞を踊り、春の訪れを祝うものである。現在は会津地域で7つの団体が活動しており、踊りや衣装は団体ごとに異なっている。しかし調査によって、少子高齢化で後継者が減少していることや、団体の関係者が互いの特徴を知らないことが明らかになった。相互理解を深めることで文化を詳しく伝えられると考え、本研究では会津彼岸獅子を伝えるポスターを制作した。各団体の違いが出ている「踊り」と「獅子頭」を取り上げ、7団体の特色を明確にした。「獅子頭」は団体ごとの特徴となる部分を柄として取り入れ、「踊り」は動きが感じられるような構成を意識した。どちらも、背景は各団体をイメージした日本の伝統色を用いることで古くから続く文化であることを表した。



- a. 赤枝彼岸獅子（獅子頭）
- b. 西勝彼岸獅子（踊り）
- c. 天寧彼岸獅子（踊り）
- d. 小松彼岸獅子（獅子頭）

〔素材・サイズ〕
紙
B1ポスター：103×72.8cm B2ポスター：72.8×51.5cm
全14点

「会津七福神巡り」へ導く御朱印帳

渡邊 史子

会津には6寺1社を参拝することで、7つの厄を払い7つの福を受ける「会津七福神巡り」があり、専用の御朱印を押受できる。発足後30年経つが、認知度は低く会津地域に深く根付いていない。そこで本研究では、近年女性の間で話題となっている「御朱印」に着目し、七福神巡りへ導くためのツールとして、新しい形態の御朱印帳を制作した。表紙は、七福神の道具や衣装、眷属等の特徴をモチーフで構成し、女性が好むデザインにするため水彩風で優しさや可愛らしさを表現した。帳内には、参詣の知識として理解を深めるための七福神の由緒書と、各寺社の場所を確認できるマップを設けている。そして表紙や帳内の素材として、温もりや品の良さを感じられる和紙を使用した。御朱印帳を通して、神社仏閣や私たちの身近な神様にふれるきっかけとなってほしい。



a. 御朱印帳の表紙 b. ページ構成（表面：御朱印の押印スペースとマップ 裏面：由緒書） c. 8種類のデザイン

〔素材・サイズ〕 和紙、奉書紙、クラフト紙、ボール紙
表紙：16×11cm 展開サイズ：16×106.8cm



北会津こどもの村幼保園のVIの提案

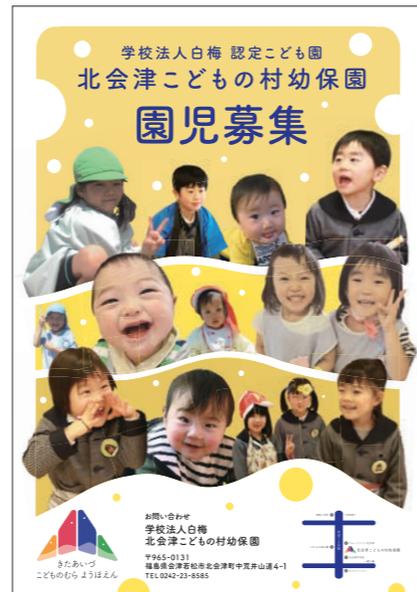
和智 綾乃

学校法人白梅認定こども園北会津こどもの村幼保園のロゴを含むグラフィックツールのほとんどが園名のみを変更した学校法人のものであるため、こどもの村幼保園の保育方針・教育目標を発信しきれていない。そのため、本研究では、ロゴを軸に保育方針・教育目標を伝え、園の知名度を上げるVIの提案を行った。従来のロゴの「明るい・エネルギー・知性・創造力」を示す「黄・赤・緑・青」を踏襲しつつ、園の施設や周囲の環境および園児がのびのびと成長していく様子を方位磁針の形状を用いて新たにロゴをデザインした。さらに、ロゴの要素を取り入れ、視覚的に統一した広報物や組札などの制作も行った。今回の新たなVIの提案により、園児・保護者・職員や地域の方に愛着を持たせ、こどもの村幼保園の保育方針・教育目標を園内外に定着させることができた。



a. ロゴ b. パンフレット c. ポスター(園児募集)

[素材・サイズ] 紙 パンフレット: 29.7 × 42cm
ポスター: 51.5 × 36.4cm, 72.8 × 51.5cm



a. 衣装箱前面 b. 着物や小物を入れた様子 c. 右側面

和の継承

現代と融和する漆

秋山 由佳

半世紀前に比べ日常生活において和服を着用する機会は著しく減少したが、儀式や冠婚葬祭の場においては現在でも日本のフォーマルウェアとして必要不可欠である。和服の文化を次の世代へと受け継いでいくためには、今の生活様式にも対応できる保管方法を考えなければならない。このような観点から、日本の伝統工芸である漆芸を用いた衣装箱の研究制作にあたった。桐箆筒の機能も生かす事を考え木地蒔絵の技法を応用しながら和を身近に感じられる構成とした。冠婚葬祭に必要な「留袖」「喪服」「訪問着」を収納できる事を前提とし、二段構造にする事でそれらに必要な帯や小物類と一緒に保管し、必要な時に探すことなく使用する事ができるようにした。文様は人とのつながりを表す熨斗文様を描く事で、代々着物を受け継いでほしいという気持ちを表現した。



a. 衣装箱前面 b. 着物や小物を入れた様子 c. 右側面

[素材・技法・サイズ] 桐、漆 木地蒔絵
40.2 × 70.2 × 37.8cm



南会津地域の活性化

手引き轆轤の利活用

遠藤 あやめ

南会津地域は、古くから豊富な森林資源と共に会津漆器の元となる木地の供給地としても重要な位置を占めてきた地域である。現在、「奥会津の山村生産用具」が国の重要有形民俗文化財として指定を受け、約5000点を越える資料が奥会津博物館に保存されているが、南会津地域を訪れる観光客にはあまり知られていない。また、観光問題とは別に、南会津地域では間伐材の利活用について検討を重ねている側面もあり、地域活性化の一助としてこれらの文化資源と間伐材の利活用を伝統的工芸と結びつけることで、新しい観光資源としての可能性について考察した。この作品は木地師の道具である「手引き轆轤」と南会津地域の間伐材を使用した体験型講座の提案と、間伐材の大きさや節、轆轤での挽きすじを活かしたかたちや塗りなどのバリエーションを提案した。



a



b

a. 全作品と手引き轆轤 b. 摺り漆 c. 蒔絵 (部分拡大)

[素材・技法・サイズ] 木材(杉)、漆、金粉 摺り漆、変わり塗り、蒔絵
最大: 18×18×7cm 最小: 7.5×7.5×5cm



c

現代日本人の心に眠る 伝統的精神文化の覚醒

漆と妖怪

小林 由布佳

大量生産、大量消費社会の現代の日本においては、伝統的精神文化が薄れているように思える。伝統的精神文化を情緒思考の文化と捉え、情報過多とも言える現代において本質を選択する能力として必要不可欠な要素である情緒力を育むため、古来よりある日本独自の文化意識をテーマとして作品を制作した。そこで日本文化に関する調査結果を元に、現代にも伝わる日本独自の「もったいない」という考えから生まれた付喪神をモチーフにデザインを考えた。手箱が妖怪に変容する様を表現する為に、喜怒哀楽の感情が最も顕著に表れる「目」を用いることで、作品と見る者との間に生まれる感情の揺らぎを意識して制作した。この「目」は今、何を見て、何を訴えているのだろうか。この作品をきっかけに少しでも多くの人に、現代の日本の姿に違和感を感じてもらいたい。



a



b

a. 作品全体
b. 上面拡大

[素材・技法・サイズ]
木材、漆、麻布
本堅地、乾漆、蒔絵
29×42×17cm

「忱」

思いを繋ぐアクセサリーボックス

出崎 萌華

自身の体験談だが、頂いた贈り物の入れ物などが汚れてしまっている中に入っているもの自体の魅力も半減していると感じた。大切な人から頂いた贈り物、気持ちや思い出をいつまでも大切にしたい、という思いから中に入れたものをより魅力的に感じさせる入れ物を制作することを提案した。贈り物を収納しておく入れ物なので実際にどのようなアクセサリーを贈られたことがあるかアンケート等を行い、形状を決定・制作した。デザインとしては、対象が同年代の女性なので「四季の植物」をモチーフとし、花言葉などを参考にどの植物を使用するか決定した。また親しみやすい「文様」を取り入れた独自のデザインを提案した。入れ物全体の統一感を持たせるため主に研ぎ出し蒔絵という技法を用いた。所々に金消・螺鈿をあしらひ鮮やかさを加えた。



a



b

a. ふたを開けた様子 b. ネックレスを収納した様子 c. 外箱

[素材・技法] 木、シナ合板、漆、金粉 [サイズ] プレスレット用: $\phi 11 \times 5$ cm ピアス用: $3 \times 11 \times 5$ cm
研ぎ出し蒔絵、螺鈿、消粉蒔絵 腕時計用: $7 \times 14 \times 8$ cm ネックレス用: $11 \times 14 \times 3$ cm 外箱: $16 \times 20 \times 9$ cm



c

弔い

現代のやすらぎと慈しみ

長澤 みなみ

仏教や仏具、弔いの心に対して強い関心を持っていたこと、短大入学後に漆を通し歴史を学ぶうちに、縄文期の漆を用いた副葬品が発掘され、その後も寺社仏閣を中心に漆工が発展してきたことを知り、漆と弔いは密接な関係であると考えた。また、現代の弔いに関する意識調査の結果から、弔いに対する考え方も変化していると感じられ、宗教にとらわれない自由な形が受け入れられていると思った。そこで私は、これからの世代を中心とした弔いと漆の関わりについて考察し、墓所に入れるお骨入れという形で新たな提案作品を制作した。木で制作することも選択肢にあったが、木胎では早い時期に朽ちる可能性も高いという問題点もあり、古墳時代に作られていた夾紵棺が長い年月を経ても形状を保っていることからその手法と漆との共存性をコンセプトとした。



a



b

a. ふたを開けた様子 b. 丸型・角型2種類 c. 上面の紋様

[素材・技法・サイズ] 麻布、漆 乾漆、漆絵、蒔絵
丸型: $29 \times 23.5 \times 17.5$ cm 角型: $28.5 \times 23 \times 17$ cm



c

部屋を効率よく使うための家具の提案

阿部 実貴恵 渡部 萌生

会津短大生の約60%が一人暮らしをしている。学生が現在の住居を選んだ理由としては、学校に近い(73.4%)、家賃が安い(51.1%)、コンビニやスーパーが近い(43.6%)であった。また学生が部屋を探す際、当初から「あきらめていた」項目として、面積・広さ(50%)、最寄り駅からの時間(39.4%)、築年数(29.8%)が挙げられた。学生であるため学生生活を優先するのが当たり前だが、その分、家の快適さを妥協しなければならない状態にあり、生活空間面での快適さを犠牲にしているのではないかと思ひ、その点の改善が望めないだろうかと考えた。そこで短大女子学生をターゲットに2年間だけ使用することを考え、その後の処理も楽である段ボールを使うことにした。面積・広さに着目して、一人暮らしの狭い部屋をより効率よく使う方法を研究し、2つの収納具を提案した。



a



b



c

a. 椅子・机(1/2スケール) b. ベッド c. 椅子正面

[素材・サイズ] 段ボール、木材

椅子・机: 180 × 180 × 72cm (収納部 高さ44cm) ベッド: 200 × 150 × 31cm

手軽なハンズフリー歩行補助具の提案

片足の不自由をサポート

五十嵐 まりあ

スポーツの際に最も起こりやすい怪我は捻挫である。捻挫は再発しやすく、完治には時間がかかり、適切な治療を受けない場合や、治療を中断した場合、関節に不安定さが残ることもある。再発防止のためには安静な状態にしておくことが重要だ。そのため、松葉杖を使用することもあるが、普段は足で支えていた全体重を慣れない脇と手だけで支えることになり非常に大変である。また、手で支えているため、杖から手を離すことができず、日常生活での些細な行動にも影響を与えてしまっている。このことから、両手が自由に使え、使用によって体を痛めることのない歩行補助具が望まれていると考え、研究に至った。調査の過程で、患者によって技師装具士がオーダーメイドで製作するPTB装具から着想を得て、レンタル可能な製品ならば、利用しやすいと考え製作した。



a



b



c

a. ハンズフリー歩行補助具 b. 装着した様子(正面) c. 装着した様子(側面)

[素材・サイズ] 支柱: 木材、金属、面ファスナー、ゴム 5 × 12 × 43cm

足との装着部分: 布、面ファスナー 30 × 40cm

子どもに運動の楽しさを

幼児から始める運動能力が高められる遊具の提案

西澤 史織

近年、子どもの運動能力の低下が問題視されている。技術や情報化社会の発展、公園の危険な遊具の撤去等により「体を動かす」という行為が子ども達の生活の中で減少している。この問題を解決するにあたり、柔軟性や能力の発達期である幼児の体力に着目し、体力向上を促すことのできる遊具の研究に取り組んだ。調査を進めていく中で、脳と運動が密接な関係にあることを知った。その中で、体を使う伝承遊びが運動能力や脳の活性化を促す作用があることを知った。そこで、伝承遊びを現代のニーズに見合った形で製作しようと考え、缶下駄と呼ばれる紐を持って歩く伝承遊びを参考に製作した。また、目的をもって考えながら遊びを工夫できるようにプレイマットを製作した。専用の収納袋に片付けることでコンパクトになり子どもでも片付けがやすく、興味を持つようなデザインを心がけた。



a



b



c

a. 使用している様子 b. 3つ並べた様子 c. 収納された様子

[素材・サイズ] 木材、フェルト、糸、紐、面ファスナー

遊具: 6.3 × 10 × 4cm プレイマット: 200 × 100 × 0.2cm 収納袋: 20 × 50 × 0.3cm

会津桐を生かした製品

会津の特産物で地域の活性化を促す

堀江 滯

会津には多くの地場産業がある。そのひとつが会津桐である。しかしながら、年々第一次産業の人口が減り、会津桐を育てる人が少なくなっている。そこで、昔からの伝統を絶やさないために、若年層に会津桐を広められるような製品を作りたい。小さいころから親しむことで、より桐を使うことの良さを伝えることができ、桐製品の発展や、後継者の育成につながるのではないかと考えた。よって、若者をターゲットとして製作した。そこで、幼い時期から触れ合うことで、慣れ親しんでもらえるような会津桐の良さを生かした日常製品を目指した。これは、小学生が工作キットとして製作できるようなティッシュケースである。桐の手触りを楽しみながら、良さを知ってもらえようと考えた。また、造形を楽しんでもらえるような形に製作した。



a



b

a. 製品上面 b. 製品側面 c. ティッシュペーパーを収納する様子

[素材・サイズ] 桐

15 × 45 × 17cm



c

長期間使用できるベビーカー

山下 佳奈子

「子供に必要な家具や子供用品」という名目で、0～9歳のお子さんがあるご家庭1,940件に行われたアンケートでは、1位のベビーカーを85.3%の人が必要だと答え、そのうちの75%は購入していた。(無印良品 2010年調査)しかし、子供が乗りたがらない、自分で歩きたがるといったことから、あまり使用することなく適応年齢を超えてしまう人もいるということも耳にする。同じく使用期間が短いベビーチェアは現在、長期間使用できるものも開発されている。そこから、私はベビーカーの寿命を延ばすということに着目した。遊具としても遊べるなど、多用途への展開ができるのなら、適応年齢を超えてからも使用し続けることのできる製品となるだろう。本研究では、ベビーカー以外の用途を増やし、購入が無駄にならないような、長期間使用できる製品をデザインした。



a



b



c

a. ベビーカー b. スケートボード風四輪おもちゃ c. 踏み台

[素材・サイズ] 木材、布

全体：70×46×103cm 椅子：70×46×88cm 踏み台：70×46×15.5cm

ゼミ紹介

2017年度卒業生がデザイン情報コースの
6つのゼミを紹介します



インターフェース | 横尾ゼミ |

インターフェースゼミではWEBサイトのデザインやサイトに載せるコンテンツを制作する技術を学ぶことができます。サイトデザインにはIllustrator、掲載する画像を加工する際にはPhotoshop、実際のサイト制作にはDreamweaverを使用しています。動画の編集やアニメーションなども学ぶことができ、あらゆる技術を身につけることができます。インターフェースゼミは自由度が高く、自分がやりたいことや興味をもったことに全力で打ち込むことができます。WEBサイト制作以外にもさまざまなことに挑戦したい人、幅広いデジタルコンテンツを学びたい人にぴったりのゼミです。



インテリア | 柴崎ゼミ |

インテリアゼミは現在2年生6名、1年生7名の計13名で、主に建築について学んでいます。住宅、ギャラリーなどを中心に自らの考え・発想を模型やパースなどの技法を用いて、アウトプットしていきます。表現の幅が広く手がかかるものが多いため、製作に時間がかかり、他の課題との兼ね合いで心が折れそうになる場面も多くあります。しかし、やっていくうちに模型表現やプレゼンテーションなどの力もどんどん身につけていきます。また、卒業研究では地域の人と触れ合うこともあるため、社会的なコミュニケーション能力も身につきます。



グラフィック | 高橋ゼミ |

グラフィック分野では、広告・出版・印刷に関連する業界で将来活躍できる人材を目標としています。実習やゼミの授業では、ポスター、ロゴマーク、パッケージなどといったグラフィック作品や、パンフレットの編集制作などを実際につくりながら学んでいます。グラフィック高橋ゼミは特に、外部とのコミュニケーションをとりながら制作していく特徴があります。実際にデザインした制作物を学外の方からも見ていただく機会があり、達成感を味わうことができます。グループ活動が多いため、互いに協力し合い、協調性が高まるゼミです。



グラフィック | 北本ゼミ |

北本ゼミは「文字と図によるグラフィック表現の展開」をテーマに制作を行い、将来デザイナーとして活躍していくために必要な表現力・構成力・伝達力を確実に身につけます。また、一人ひとりが真剣に制作に向き合い自身のデザインの表現性を高めているゼミです。実習や卒研ゼミの授業ではポスターやロゴなどの様々なグラフィック作品を制作しており、先生の愛のこもった完璧な指導のもと、ゼミ生はそれに応えようと全身全霊を捧げて制作に打ち込んでいます。その中で私たちはグラフィックデザインの本当の楽しさに心踊らされるのです。



クラフト | 井波ゼミ |

クラフトゼミは、漆を専門に学ぶゼミです。漆とは、太古の昔から日本の文化と共にある樹液です。私たちはその漆を使用し、モノの形から加飾まで自らデザインを考え制作していきます。初めは自分達の手で木材を加工し、籠など二年間使用する用具を制作します。そして、徐々に漆の基礎的な知識を学びながら作品制作に取り掛かります。漆工芸は沢山の工程があり一つの作品が完成するまでとても時間がかかります。そのため、根気のいる作業ですが作品を作り上げていく楽しさや、完成したときの喜びはクラフトゼミならではの充実感があります。



プロダクト | 時野谷ゼミ |

起床から就寝まであなたは数多くのプロダクトデザインに触れています。プロダクトとは、自動車や電化製品といった工業製品に加え、家具や食器、文具などの生活用品も手がけており、多種多様な分野です。そんな製品を私たちプロダクトゼミはどうすればユーザーは使いやすいか、興味を持つのかといった要素を試行錯誤しながら新たなデザインを生み出しています。時には厳しく、時には担当の時野谷先生の美味しい手料理を食べて学ぶことができました。あなたの生活をより豊かに暮らしやすい空間を作るこそがプロダクトゼミの使命なのです。

卒業作品集

DESIGN GRADUATION WORKS 2018

編集 | 北本 雅久 後庵野 かおり
加藤 早織 山内 花南子

デザイン | 北本 雅久

発行 | 会津大学短期大学部
産業情報学科 デザイン情報コース
福島県会津若松市一貫町大字八幡字門田1-1
TEL 0242-37-2300(代) URL <http://www.jc.u-aizu.ac.jp/>

発行日 | 2018年3月19日

本書の無断転写、転載、複製を禁じます。



JUNIOR COLLEGE OF AIZU

